

ある、又北米太平洋岸に分布する *Cladothamnus* にも酷似して居るが花が萼の外はその數から成つて居る點が相違すると云ふ 従つて此の植物は唯一種を含む *Botryostege* STAFF なる新屬となり、*Botryostege bracteata* STAFF の名で呼ばれるべきであると、(大井次三郎)

テリオール氏 :—**ジュール カルド** Jules CARDOT (1860-1934) par I. THÉRIOT.—*Revue Bryologique et Lichénologique* 1935, p. 5-13.

佛國の蘚類學者 J. CARDOT に關して、同國の I. THÉRIOT が一文をものしてゐる。所々抄録して見る。

1860年に生れた。1880年頃より蘚類に興味を持ち 1914年に歐州大戰の爲 標本藏書を失ひ 蘚類研究を斷念せねばならぬ様になつたまで、彼は非常な精力をもつて 廣く全世界の蘚を研究の對象とした。その活躍をながめると他學者との共著を含めて 40屬を建設し新種は 1200種に及んだ。THÉRIOT は随分多くさん書いたと評してゐる、その記載は明確にして正確であり、他種との比較を委く書いた最初の人であり、且つ正確にてしかも美術的な圖を以て説明してゐることは氣持がいい程であると、THÉRIOT はほめちぎつてゐる。新種を作るのみならず、蘚類學に關するあらゆる方面に關心を持ち仕事をした。

Monograph としては、有名な “*Recherches anatomiques sur les Leucobryacees*” があり、1892以後の *Fontinalaceae* の仕事も優秀である。命名規約に關する意見も *Revue bryologique* (1913) に見へ、“*Note sur la flore de l'Antarctide*” 及び晩年の “*Contribution a l'étude du peuplement des îles britanniques*” の兩論文は、地理的分布を考慮に入れたすぐれた同時に之の方面の最初とも言ふべき論文であつた。

Académie des Sciences は彼の仕事を高く評價し “*Recherches anatomiques sur les Leucobryacées*” に對しては、1900年に Montagne 賞を、“*Flore bryologique des terres Magellaniques*” に對しては 1906年に、“*Mousses de Madagascar*” に對しては 1916年に、それぞれ Desmazieres 賞を、又政府は 1923年に Légion d'honneur の勳賞を與へた。以上が 1914年不幸におそはれるまでの、蘚と共に暮した彼の第一の生涯とそれがやかしいむくひである。1915年-1917年には Muséum national で顯花植物の研究に送り、1917年-1931年には印度支那政府にあつて農業方面に關する仕事があつたと聞く。1919年には残つた? 標本も、財政的不幸の爲に之を手離さねばならなかつたとは之上なく不幸な人であつたと評せねばならぬ。かくして 1914年の不幸

が、大戦がなかつたなら現代に於ける最も偉大な蘚類學者で當然あつたのに必ずや第二の生涯は寂しく過して75才の長命をもつて昨年11月22日 Charleville に長逝した。が第一の生涯は長く蘚類學史に残るであろう。殊に U. FAURIE の多量の採品の調査研究により日本とは殊に關係深く彼が發表した新種は260種に達してゐる。次に全論文約110の中より、日本に關する論文を取出して、抄録者は J. CARDOT の功をしのお事にする。

Monographie des *Fontinalacées*, Mén. Soc. Sc. natur. Cherbourg, t. XXVIII (1892), pp. 1-152.

Fontinales japonaises, Rev. bryol., t. XXIV (1897), pp. 33-36.

Nouvelle classification des *Leucobryacées*; Rev. bryol., t. XXVI (1899), pp. 1-8, I Pl.

Recherches anatomiques sur les *Leucobryacées*, Mém. sc. natur. Cherbourg, t. XXXII (1900), pp. 1-84, pl. I-XIX.

Première contribution à la flore bryologique de la Corée, Bot. Centralbl., Bd. XVII (1904), pp. 1-44, 27 fig.

Mousses de l'île Formose, Botan. Centralbl., Bd. XIX (1905), pp. 85-148, 37 fig.

Mousses nouvelles du Japon et de Corée, Bull. Herb. Boissier, 2 série, t. VII (1907), pp. 709-717; t. VIII (1908), pp. 331-336; Bull. Soc. bot. Genève, 2 série, t. I (1909), pp. 120-332; t. III (1911) pp. 275-294; t. IV (1912), pp. 378-387; t. V (1913), pp. 317-324.

Notes bryologiques: II. Sur les *Leucobryum* du Japon, Bull. Herb. Boissier, t. VIII, pp. 163-165.

Boulaya, genre nouveau de la famille *Leskeacées*, Rev. bryol. (1912), pp. 1-3.

(外山禮三)

秦仁昌氏：——亞細亞大陸及び日本臺灣のヒトツバ屬に就て

R. C. CHING: On the genus *Pyrrhosia* MIRBEL from the Mainland of Asia including Japan and Formosa in Bull. Chin. Bot. Soc. Vol. I. 36-72 (1935).

1803年に佛蘭西の植物學者 MIRBEL が *Pyrrhosia* と云ふ新屬を發表しこれを *Pyrrhosia chinensis* MIRBEL と云ふ一新種で代表したことがある。爾來130年、この屬は全く忘れてゐたが、*P. chinensis* MIRBEL はヒトツバであることが明になつたので、屬名としては *Cyclophorus* DESV. の代りに *Pyrrhosia* MIRBEL を用ひなければならなくなり本屬の植物約100種の學名は一つ残らず變更せられることになつた。本編は主として亞細亞産の種類を詳説してあり、そのうち日本産のものは次の如く學名が變更せられてゐる。